

第8回京丹波町総合計画審議会 会議概要

日 時 平成28年12月15日（木）午後1時30分～3時55分
場 所 京丹波町役場議場
出席委員 総合計画審議会委員（欠席3人）
株式会社ぎょうせい（1人）
畠中副町長、事務局（伴田参事、山田参事、久木課長、石崎主幹、堀室長、
田中補佐、片山主査）

1 開 会

・会長あいさつ

本日は、正副部会長会議で取りまとめた中間案について、パブリックコメントを実施した結果に基づき、答申案のとりまとめをお願いしたい。積極的な発言をお願いする。

2 第2次京丹波町総合計画（答申案）について

※事務局より資料説明。正副部会長会議以降の修正（青字波線）、パブリックコメント以降の修正（赤字下線）の説明、パブリックコメントに対する考え方の整理について説明）

※主な意見

委 員 P54の主な取組みは、①のレベルが他のところと違う。
事務局 「①」の表記については、農林業の振興（中分類）と同様の記載として、「小分類」としての整理を行っている。（その2項目のみである）
委 員 映画ロケ地についての細かい内容の記載はないのか。物を売ることも大切である。体験ツアーなどについても教えてほしい。
事務局 特に詳細に記載することはしていないが、事業担当課では今年度ロケ誘致に向けた事業を積極的に実施している。体験ツアーといった地域住民との交流も順次計画的に実施していく。
委 員 P59のホストタウン誘致は既に決まったのではないか。（目標指標に必要なか）
事務局 第3次登録が決定したが、誘致は今後相手国と調整していくこととなる。
委 員 P47「人財投資」の文言について、他の分野でも必要なことは理解したが、この項目には追加しないことでいいのか。パブリックコメントの意見では「追加してはどうか」という意見に対する答えになっていないので、審議会の結果としては明記することが必要ではないか。
事務局 パブリックコメントの考え方を整理し、再度正副会長に確認いただく（一任）

【各委員から意見等】

・身近なところから実現につながっていけばよい。

- ・ P55 の町を支える人材を地域全体で、ぜひ強力に進めていただきたい。ずっとこの町に住み続けたいという人材を作っていくべき。地域の祭りは学校をお休みにするといったことも昔はあった。
- ・人口が減っていることの危機感をたくさんの方に知ってもらい、いろいろなことを進めることが大切である。
- ・ P81 の要援護者への支援体制は、民生児童委員や区長会など既に連携して進められているので、この文章表現は修正していただきたい。
- ・人口の減少と高齢化は大切な部分である。自分も高齢者の一員となっており、いろいろ勉強させていただき感謝している。
- ・各自がそれぞれの立場で取り組まなければならない。あらためて頑張らなければいけないと感じた。
- ・この 10 年間、計画通りに進められればと思う。商工会も厳しい状況となっているので、将来ビジョンを描いていきたい。観光客の入込客数が府のデータと町の公共データが違う理由を再度説明いただきたい。
- ・将来人口フレームの趨勢人口にはインパクトがある。今後何をすべきか、どれかのプロジェクトに何らかの形でかかわっていきたい。
P79 の達成事項は2つしかないが、もっとソフトの部分もあるはずである。例えば防犯カメラの設置など。
- ・地域の金融機関としてお役にたちたい。なんでもお気軽に相談してもらいたい。
- ・地域の間人ではないが、委員となったことで内部から取組みを考えさせていただいた。京丹波町らしい良い計画となったと思う。計画を作った以上は、住んでいる人たちが共有して、住民が動いていくことが大切である。作った後が大切なので、今後もお手伝いしていきたい。
- ・何とかしかければ「やばい」と思う。国際化とグローバル化の世界の中で、どう生き残るか。そうすることで高齢化社会の中でも生き残れるのではないか。10 年の間に環境変化も起きてくるであろうが、その都度対応しながら京丹波町を盛り上げていきたい。
- ・旧 3 町がだいぶ 1 つになってきている。高齢化により若い人が地域活動に出てこない。町民として、何ができるのか、各々の村づくりをしっかりとやっていかなければならない。住民側も町に提案していかなければならない。例えば、町をきれいにすることが人を呼びこむことになるのではないかと考える。
- ・農業振興に協力していきたい。財政力指数について、住民にも分かりやすい文章表現（全国平均などを入れるなど）を工夫してほしい。
- ・町民の方はもっとまちのことを知りたいと思っているはずで、守るべきもの（取組み）と変えるべきもの（取組み）を選択しながら、町民向けに発信していくことが大事。図書館は、15 年前から欠けているサービスであると考えている。進んでいる取組みと遅れている取組みのギャップが大きい。町民がもっと満足できるよう、充実させていただきたい思いである。
- ・まちに関心を持っていただくためにも、この計画をみんなに見ていただけるようなものにしてほしい。

P63の目標指標の中で留学生数が12人/年→12人/年、P74、P78などは同じ目標指標があるが、これは同じで良いのか。

- ・Iターン代表として定住に結び付けていくために、外から来た人も住みよいまちになること。皆がいいところだと暮らしやすいまちになる。子どもたちのためにも、総合計画をいい意味で展開していきたい。

宗田教授 委員の幅（年齢や町外、Iターン者など）が広がり、参加意識も高かったと思っている。これまで各市町村とも様々な施策を実施してきたが、現状は人口が減少している状況。これは、今までの施策が悪かったと認識（危機感をもつ）することが重要である。計画では、「主な取組」をあまり見直さず従前の取組みを羅列してあると、実効性に欠ける（達成しようとしていない）。地域産業を維持していくには家族単位から考え、集落⇒地域単位へと徐々に考えていくべきである。主要プロジェクトの一つである「風プロジェクト」は重要で、しっかりと「風（社会の変化など）」をとらえ、住民が動くことが大切である。

会 長 答申案の修正については、正副会長に一任いただいてよいか。⇒委員了承

3 今後のスケジュール

事務局 最終の答申案を正副会長に審議いただいた後、1月中には答申させていただくよう進めていく。また、先ほども意見にあったように、計画を策定するだけではなく、その都度見直しが必要であると考えており、各団体から推薦いただいている委員もおられるが、事務局としては委員の継続をお願いしておきたい。29年度は1～2回の開催をお願いし、昨年の創生戦略の進捗管理などをお世話になっていきたい。

4 閉会（副会長）

この審議会でも何でも話せる場となったことに感謝している。移住者にも住みやすいまちとなり、まちが元気になるよう、これからも皆さんと一緒に力を合わせて頑張っていきましょう。

副町長 精力的な審議会であったと実感している。生まれ育った方、勤めていただき携わっている方、新たにお住まいいただいた方など、各階層の方々に審議いただき、他に類をみない審議会であった。皆さまには本当に感謝申し上げます。これまでの計画は人口右肩上がりの楽しい計画であって、計画策定に際しては、メガコンピテンション、グローバル、ローカリズムといった視点が急速にいわれていた。皆さんと思いは共有できている。それぞれの立場で町民の方にお知らせいただきたい。